

令和4年度第1回恵那市教育環境等検討委員会会議録

開催日時	令和4年8月30日(火) 午後7時～		
開催場所	恵那市役所 会議棟 大会議室		
出席委員	委員長	額 額 佳 恭	
	副委員長	宮 地 喜 義	
	委員	前 川 登	
	委員	安 藤 常 雄	
	委員	若 森 慶 隆	
	委員	安 田 和 枝	
	委員	林 昌 志	
	委員	遠 山 邦 明	
	委員	後 藤 純 一	
	委員	大 島 聡	
	委員	林 廣 和	
	委員	細 江 幸 次	
	委員	篠 原 徹	
	委員	鰐 部 靖 子	
	委員	玉 置 崇	
欠席委員	委員	小 出 日香梨	

説明のため出席した学校再編対策室職員等

教育長	岡 田 庄 二
教育委員会事務局長兼学校再編対策室主任主査	長谷川 幸 洋
教育委員会事務局次長兼学校再編対策室長	佐々木 和 美
学校再編対策室副室長	安 藤 善 和
学校再編対策室主査	原 久 晃
学校再編対策室主査	村 瀬 か な

議 事

- 1) 恵那南地区中学校再編について
 - ・経緯について (答申書)
 - ・課題の検討内容について
 - ・保護者意見交換会について
- 2) 意見交換会

開 会（午後7時）

学校再編対策室副室長

定刻となりましたので、ただいまから第1回恵那市教育環境等検討委員会を始めさせていただきます。

まず初めに、委員の皆様のお手元に配付した資料を確認させていただきます。

それでは、こちらのレジュメに沿って会を進めさせていただきます。

1 教育長挨拶

学校再編対策室副室長

まず初めに、恵那市教育長、岡田庄二が開会のご挨拶を申し上げます。

教育長 皆さん、こんばんは。教育長の岡田でございます。今日は、皆さんの貴重なお時間をいただきまして、当委員会ですらいろいろとご検討いただくということでございます。よろしくお願いいたします。

まず初めに、天候等で、2回ほど実施を変更させていただきました。ご迷惑をかけましたけれども、ぜひ今日は多くの意見をいただきたいと思っております。さて、この恵那南地区の中学校の再編につきましては、平成27年度に答申書を頂いたときに、私は教育委員会の教育次長として、この答申等の作成等に関わってまいりました。それから少し月日がたってしまいましたけれども、この理念は尊重されるべきものでありますし、これはとても大切なものだと思っております。それから月日がたったことで、状況もかなり変わってきております。例えば、平成27年度は、出生数でいいますと、恵那市全体は333人。これが令和3年度になりますと210人。恵那南地区でいいますと、平成27年度は92人、令和3年度は46人ということで、少子化が急速に進んでいることを感じております。また、子供を取り巻く環境も大きく変わってきておりますので、当時の答申の理念は大切にしながらも、いろいろとご意見をいただくべきところがたくさんあると思っております。ぜひ皆様の意見をいただきながら、スピード感をもって前へ進みたいと考えております。

今日は説明が多くなりますが、疑問点、改善点、問題点、全て出していただいて前へ進みたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

2 委 嘱

学校再編対策室副室長

続いて、2、委嘱ですが、皆様の机の上に委嘱書を配らせていただきました。これを持ちまして委嘱に代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

3 自己紹介

学校再編対策室副室長

続いて、3、自己紹介です。レジュメの裏面を御覧ください。第1回の会となりますので、皆様からお一人ずつ自己紹介をいただきたく存じます。

委員 各委員及び事務局の自己紹介。

4 恵那市教育環境等検討委員会設置要綱について

学校再編対策室副室長

続いて、4、恵那市教育環境等検討委員会設置要綱について、事務局より説明いたします。

教育委員会事務局次長兼学校再編対策室長

恵那市教育環境等検討委員会設置要綱について説明

5 恵那市教育環境等検討委員長並びに副委員長の選任について

学校再編対策室副室長

続いて、5、恵那市教育環境等検討委員会委員長並びに副委員長の選任についてです。

要綱の第5条に、委員会には委員長及び副委員長を各一人置く、2項には、委員長は委員の互選により選出するとあります。

それでは、委員長に立候補していただける方はいらっしゃいますでしょうか。どのように委員長をお選びすればよろしいでしょうか。ご意見がある方、よろしくお願ひいたします。

委員 事務局で何か案はありますか。

学校再編対策室副室長

ありがとうございます。事務局の案としましては、委員長を瀨瀨佳恭様にお願ひできればと考えておりますが、いかがでしょうか。

委員 異議なし。(拍手)

学校再編対策室副室長

ありがとうございます。それでは、瀨瀨佳恭様、委員長のお席にお願ひいたします。

次に、同じく第2項に、副委員長は委員長の指名する者とする とあります。瀨瀨委員長様、副委員長の指名をお願ひいたします。

委員長 それでは、設置要綱に従って、6番の岩村町の宮地喜義さんに副委員長をお願ひしたいと思います。よろしいでしょうか。

委員 異議なし。(拍手)

学校再編対策室副室長

それでは、宮地様、副委員長席にお願ひいたします。

6 委員長及び副委員長挨拶

学校再編対策室副室長

それでは、委員長及び副委員長にご挨拶いただきます。

委員長 それでは、皆様方、改めまして、こんばんは。今回、委員長に選出をしていただきましたので、挨拶をさせていただきます。

力不足かもしれませんが、一生懸命この責務を遂行したいと思っております。

私は退職して10年たちます。もともとは学校関係の仕事をやっております、委員に選んでいただいて本当にうれしいというふうに思っております。10年間、いろいろの子供や地域の人にお世話になり、ここまで来ていますが、なかなかその恩を返すことができないと思っています。今回、少しでも将来の子供のため、あるいは地域のために、皆さんと一緒に力を発揮できればと思っておりますので、一生懸命やらさせていただきます。どうかよろしく願いいたします。（拍手）

副委員長 失礼します。私みたいな若輩者が諸先輩の皆様方を差し置くような形で副委員長に選出していただき、少し重たいですけれども、頑張りたいと思います。私、ちょうど子育てが終わった世代で、今、50歳でございます。これから恵那市の未来を担う子供たちのために、恵那市の中学校がよりよい方向に行ければと思っており、皆さんとともに明日の恵那市をつくっていきたく思いますので、ぜひよろしく願いいたします。（拍手）

7 議 事

1) 恵那南地区の中学校再編について

委員長 それでは、議事のほうに入ります。まず、事務局の説明を聞いて、その後、皆様方のそれぞれの意見をいただきたいと思っておりますので、お願いします。

教育委員会事務局次長兼学校再編対策室長

資料に沿って説明。

委員長 何か質問や意見はありませんか。今回初回ですので、順次お伺いします。

委 員 何となくうまくいかなかったことが分かりました。

最初に、平成28年に出示された答申書は、教育委員会から諮問を受け、一つに、学校の統合時期、それから、学校の統合場所、これが示されたということですが、なぜそれが必要なのかという目的が書かれていない。最後に保護者の意見が出ているというのは、当然この答申をするに当たって、委員会が保護者からの意見なども聞いて、それを答申書に入れるべきであり、やるべきことをやっていないのではないかというのが一つ。

それから、附帯事項が8つもつくなんてことは聞いたことがない。8つも附帯事項をつけるということは、考えた再編委員会の人たちが、いかに仕事をさぼっていたかということ。こういう附帯事項を残したまま会議が終わるなんてことは、会議を捨てていることになる。だから失敗したのではないですか。

そして、今回、よく分からないのは、恵那南地区学校の再編についてという「資料3」のタイトルがあるのに対して、今日の委員会の検討の役割、目的は、恵那南地区の中学校の教育環境の方向性についてということ、方向性をどうするのか。要するに、その結果が統合なのか、何か課題がぼけちゃっているのがある。そして、なおかつ我々先ほど委嘱状を頂きましたけれども、令和6年の3月までという2年間、実際は2年間ないわけですが、この間の任期の間でやれということなのか、それとも、違う人によってやるということなのか。変わってやるということになると、また会議は一へと戻るので、大抵

は収束しない。いずれにしましても、やり方が非常に未熟なんじゃないかと思うのです。それから、私はいろいろな会議や会合で答申書を出したことがありますが、答申書に対して、教育委員会がかくも簡単に答申を無視して実行しなかったという、答申とはこんなものなのかと。そうしたら、今後、答申することが嫌になります。今、いろいろな説明をされましたけれども、目的がしっかりすること、例えば、子供たちにしっかりした教育をさせるのが目的なのか、それとも、登下校にかかる時間を最小限にするのが目的なのか、それとも、他のこと、それをはっきりすれば、保護者からの意見について、その目的と違う意見は、目的と違うので、ここでは受け入れられませんというくらいの強い気持ちをもっておかないと、百人百様の意見の話をいちいち聞いていたら、何もできない部署が教育委員会となるのです。だから、恵那市の教育委員会は、先頭立ってやってくれるすごくいい部署ということを考えていただいて、まずは、この目的をきちっとして、何をするのか決める必要がある。今回、私どもに対して何をするか、話が無いので、前回と同じことになる心配をします。さっきあったように、令和11年までの人口の減少と、それから、学校の生徒の数が出ているので、そして今、若い人たちの意見が年寄りと違うことも分かってきたので、翌年先、5年先のことを考えて、もっと若い人をメンバーに入れて、その人が親だったらどうするかというようなことを考えないと。年寄りは昔のことを覚えていて、昔のことに引っ張りたいたいのです。それでは駄目。世の中は世界的に大きなうねりでもって変わってきているのです。さっきありましたけど、ICTで何かできるとか、何か片一方でそういうことを言いながら、片一方で堅いことを言うようなことになっているような気がします。最初にちょっといろいろ申し上げましたが、以上です。

委員長 ありがとうございます。今、論点を絞ることがなかなかできませんので、順番にまずはお聞きしたいと思います。次、お願いできますか。

委員 私はこの答申が出されたときに、上矢作のいろんな声を聞きました。しかし、時間がたった昨年、私は中学校統合の話聞いたときに、今、前川会長が言われたように、若い人の声を聞いてほしい。論点として、統合は答申されている。だから、それに沿って、進めていこうと地域にも話してきました。ですので、僕は、あくまで統合は素早くしていただきたいと思っております。後でも結構ですけど、教育長がこの件に関してどう思われているのか。先ほどちょっとお話ありましたけれども、後ほどでよろしいので、思いを聞かせていただきたいと思います。

以上です。

委員長 後からでよろしいですか。

委員 良いです。

委員 私は、この恵那南中学校ができるということと、それから、山岡地区へ来ることを、6年ぐらい前に聞いておりました。その後、一向に進んでないので、この事は立ち消えたのかな、多分そう思ってみえる方が多く、恵南地区の人たちはそう思っていると思うのです。統合するというのであれば、統合する、統

合ありきで事を進めていかないと、先ほど教育長が言われたように、スピード感をもってやる、これが一番大事だと私も思います。少子化と言っていますが、5年も6年前に出てきた話じゃないですよ。もうずっと以前から出ている話で、分かっていることなので、やはりそうしたことも含めて、スピード感というのを非常に大事にしていきたいと思っています。

以上です。

委員 今、いろいろなお話を聞いていましたけれど、やはり未来の子供たちに軸足を置く必要が絶対にあると思います。だから、今現状どうしたいかということよりも、10年後の子供たちのことを考えたときに、もう学校というのが一つになっていかなければいけないのではないかということは、この数字が明白に語っていると思います。部活動、教育環境を含めたところで、子供たちが複数の学級で学べるということは非常に大事なことだと思いますし、今、専科の先生がいらっしゃらない状態の学校がたくさんあるかと思っています。技術は技術、音楽は音楽というような形できちっと専門の先生に教えていただけるような学校づくり、それで、子供たちが部活を好きに選べるような学校づくりみたいなものをしていくというふうに考えていくと、やはり皆さんが今までに言われたように、統合というものを前提に考えて、その上に物事を積み重ねていくような議論が必要じゃないかというふうに感じます。

以上です。

委員 今日、初めてこのような話を聞き、小学校はいざ知らず、中学校が統合するというお話を伺った状況です。もしこれをやるのであれば、もうやるというふうにして進んでいかなければならないと思います。検討ということは、聞いた中では長年やってきているから、もう検討は済んでいるという認識ぐらいだと思っていました。それで、これをどうするか、教育方針をどうするかという話なのかなという認識でいました。私の職業は設備屋さんです。設備のほうが主なので、ランニングコストの面から考えると、もう土地さえ決まってない。場所さえ決まってない。いや、山岡につくりますよ、どこですかという状態じゃ話にならないと思うのです。やるのであれば、土地から決めちゃって、建てますよという前提でこういう会を開くのだったら、まだいいかなと思いますが。まだ予算自体も、これから恵那市の財政事情から見ると、今、さっき新築を建てるなら35億とかいうお金、どこから出るのですか。税金ですよ。結局それをどうするという事です。あと、通学のランニングコスト。例えば、上矢作の小田子地区、もしくは串原の矢作川上流部を考えると、結局岩村から回った方が早いですよ。逆に言うと、稲武の中学校行ったほうが早いぐらいの話。それを考えると、どうなのという。あと、ちょっとまだ時間がかかるのであれば、岩村・上矢作ブロックで一つ、南中学校岩村校舎、南中学校山岡校舎みたいに2つのブロックにして、とりあえず動かすという案もありかなというのを考えたところです。

委員 ありがとうございます。私もPTA会長を初めてやって、今まで聞いたことのないようなことですがけれども、今、数字だけ見ると、もう待ったなしかなと。

恵南地区のことを検討する間に、多分この旧恵那地区のほうも統合しなくてはということが、出てくるかなとも思いますので、皆さんいろいろ厳しい意見が出ていますが、もうやるっていう事に決めたのであれば、後は粛々と進めていくというようなことでいいのかなと思います。

以上です。

委員 今日会議ですが、去年の3月に山岡で保護者を集めた会議がありましたが、そのときと全く同じ内容で、メンバーが変わっただけというだけです。その時、保護者として教育委員会に問いかけたことへの答えは一つも返ってきていないという状況です。同じ内容をまた今日同じ会議をしているので、3月にわざわざ集まってやった意味がないんじゃないかと思います。そのときに着地をつくってくださいって僕らはお願いしたわけです。着地がないのに出発したって、ずっとそのままなので、もう合併するって教育委員会が決めているのでしたら、もう何年何月に開校をしますっていう、そのまず着地をつくってからじゃないと進めないのではないのかという意見。僕らはずっと言っていたのですが、それで、27年度から28年2月にかけて2年間、前回の編成委員の方がやってみえると思いますが、これも前、僕が言わせてもらったと思うのですが、この2年の後にピタッと止まった。その続きはどうなっていますか、という答えを3月に集まった時に聞いたかったです。何故、どうしてこの話が無くなったのか、途中で終わってしまったのか。だから、今もう保護者の方は合併にすることは賛成、まあ賛成ですけど、ただ、なぜ途中で止まってしまって、またいきなりこの話がでてきたのか、その辺をどう考えているのかという事を今日聞ければと思いました。

委員 今の意見、すごく共感しております。会議をやるたびに毎度同じで、「今さら何」という意見が毎回出ているのが実情であります。そのたびに一つ変わっていることは、どんどん切羽詰まっているという状況です。皆さんは、やっぱり早くしなければという思いをもっておられます。

一つ、当事者意識をもつ人が変わってきてしまうということがあります。やっぱり特に保護者に意見を聞く、若い世代に意見を聞くという話がありますが、やっぱり自分の子供に焦点がどうしても行ってしまうので、今、中学校の子供を持つ人たちは、もう自分らは関係ないというような感じになってしまいます。やはり小学校の低学年とか、こども園に子供さんがおられる方にとっては、すごく興味がある話だと思いますし、そういった方の思い等を一番受け止めていただきながら、まあもちろん地域全体、恵那市全体としての教育を考える必要というのはありますけど、やっぱりその思いが強い方々、よりこうして欲しいという気持ちを酌み上げていただきたい方をターゲットに、しっかりと意見を吸い上げながらも、スピーディーにこなしていかないと、またターゲットが変わってしまいます。そういったことで、この検討委員会、2年の任期のうちに片づけるというのがおそらく目的ではないかと思って聞いてはいますけど、みんなで頑張ってやっていきたいと思っております。

以上です。

- 委員 場所も決まってないのに、何をやっているのかと思ったから、来ています。
- 委員 1学年、1クラスになっているっていうことで、出生数も本当に少ないということに特に感じていますが、やっぱりそういう不安もあったけど、保護者さんの思いとか、生徒さんたちの意見とか聞いていただいて、保護者の方は、今どうな状況なのか進捗状況みたいなことは知りたいということは聞いたことがありますし、不安もきっとあると思いますので、お伝えできることは伝えながらこの会に参加させていただき頑張りたいと思います。
- 委員 現場の立場からお話いたします。山岡中学校も単学級で30人、24人、23人という3学年ですけど、これはメリットとしては、先生たちが子供たちのことを非常によく知っている、家族環境、家庭環境まで、全員が把握するというメリットはあります。単学級であるデメリットは、先生が学級担任3人、特別支援2人、あと生徒指導、教務主任、7人しかいません。中学校で単学級であるということは、当然小学校でも単学級、つまり9年間クラス替えがないということです。これは、子供にとって非常に過酷な状況だと私は見えています。子供ですので、人間関係のトラブルは日常茶飯事です。一旦クラスを離れたほうがいいという事例もたくさんございますけど、そういうことはかなわないという現状があります。これはもう本当に過酷というか、かわいそうです。あと、3つ目のデメリットとして、やっぱり部活動の選択肢が非常に狭い。興味が無い部活動に強制的に入らされているという現状もあるので、子供の目線で見るときは、もう一刻も早く統合です。通学に時間がかかるとか、おらの町に中学校がなくなるとか、それは二の次の問題で、今の子供たちに非常に負担がかかっているという現状を見ていただくと良いと自分は思います。
- 委員 お願いします。ちょっと違った視点からですが、課題11に用地候補決定から何とか関係で約6年間必要と。ということは、用地決定をするまで、まだそれ以上に時間がかかるわけですから、これまで実現できなかった以上、また待たされるということを思ってしまいます。それで「またかよ」となってしまわないか。現状、今、こども園や小学生の保護者さんたちも、当事者意識をもてと言われても、その頃になったら、うちの子供、もう中学校卒業していると言ったら、真剣味は増すだろうかということ。少しでも、今現状を踏まえてと、具体的な想像力を働かした場合に、現状では2クラスに、いや、何とか2クラスくらい程度になる。今後の数字として、今でやっどぎりぎり2クラスになるのであれば、もう現存の、既存の山岡中学校の校舎をすぐ、もっと時間短縮を図ることは可能じゃないかということをお考えになってしまうんです。もっとスピード感を持って現実的なものにする。先ほどこの委員会が2年間の任期と言われましたが、2年間で何とかせよっていうことであれば、すぐに何とか実現する方向を探っていく必要があると思います。だから、もう必要ないデータはむやみに提示しなくてよいです。今こうです、これで行きますよと、いうもののほうが賛同を得られるんじゃないかなということをおもっています。そうした既存のものを利用するだけでも、かなり先ほど費用の、新中学校のかかる費用が何億円って言っていましたけど、もっと現実を見ていけば、節約できるところ

はたくさん出てくるのではないかと私は考えています。

また、今後の恵那南地区の生徒数の人数を示すことにより、いろんな議論は省いてもっとスピード感をもてるかなということを思っています。

あと、他市のことで大変申し訳ないですけども、小学校ですが、4校統合しました。その学校については、10年前に統合問題が出て、住民の、関係者の投票だったかな。人数は、たしか55対45くらいの僅かの差で統合賛成となりました。当時の教育長さんや市長さんの判断で、そういった拮抗しているのであれば、統合するべきではないということで、統合がなしになりました。でも10年後に、児童数の減少があまりにも大きいということで、今度は、保護者の方のほうから統合してほしいと言う意見が出て、強くなって、その結果どうしたかという、一年間で統合が完了しました。スピード感をもってということで、私、その当時、勤務をしていましたが、非常に、毎月こういう会議で集まって、細かなことを詰めていったときに、時間的とか体力的に大変つらいものがありましたけど、スピード感というのはそういうことであると思っていますので、参考になればと思って言いました。

以上です。

委員長 副委員長さん、どうでしょう。

副委員長 私は、ちょうどこの第1回目の統合の話が出たときに、岩村で聞く立場でした。当時は、自分の町から中学校が消えるっていうのは、自分は反対だと。そういう意見が岩村・明智の中での現状とありました。それで、何でなのかわかりませんが、明知鉄道で通学するという、このとてつもないウルトラCみたいなことが出て、これ果たして可能なのという話を、僕はしたことがあります。それできっとこの統合の話が止まってしまったと思うのです。そのようなことがいろいろあって、各地域の当時の保護者の方々はもう、きっと参加されていなかった覚えがあります。地域、今でいう自治区の方々が運営している中で決まったことが、きっと多かったのではないかと思っています。今は、進める形になっていますが、当時は、保護者とかPTA会長の意見を聞かずに話が先行していった覚えがあります。恵南にいる身として言わせてもらおうと、正直僕も今、高1の子がいますけど、本当部活は選べなかったですね。実際、専門的な教育が受けていない、体育の先生が技術を教えたりしております。悪いわけではないです。でも、やっぱり聞くと、今の子はネットワークがすごいので、いろいろやりたいのではないかと思います。歌を歌いたい子もいるし、絵を描きたい子もいる。踊りたい子もいる。単純に親として、早く一緒になったほうがいいのではないかと一つ思っています。ただ、当時のことを思い出すと、保護者の方々は蚊帳の外でこれが出てきたような記憶もあります。しかし、今がチャンスだと捉えて、もう一回、子育てされているお母さん、お父さんの意見を聞いて、先回ってやれば一番いいなと思っております。当時はそんな形でこれが出てきたような記憶がありましたので、ちょっと参考までにと思ってください。うまく答申が出せなかったという記憶だけあります。

以上でございます。

委員長 ここで教育長のお考えをお願いします。
教育長 教育委員会ということではなく、私の考え、思いということでお話をさせていただきます。

恵那南地区の中学校、それぞれによさがあります。小さい学校がだめだとは、全然思っていない。しかし、よりよい学校をつくりたいという気持ちは強い。そして、今できることをやっておかないといけないと思います。「子どもたちのためによりよい学校をつくる」という覚悟をもって、私たちは学校統合について分かってほしいこと、理解してほしいことを言い続けていくのが大切だと思います。もちろん意見は聞いていかなければなりません。統合反対の方にもご理解いただけるように努力していく必要があります。しかし、様々なお考えの方がいますので、全員賛成ということは難しいのではないかと思います。私たちが、真剣に考えて出した方向を分かっていたくように努力することが大切だと考えています。そして、教育委員会だけではなく、市長さんや市の職員の方たちにも、理解してもらわなければならないことです。

「教育長の考えは」ということですが、私は統合がよりよい方向だと思っています。小学校や中学校、高校でもいいんですけど、できる限り早い時期にいろいろな人と出会って、いろいろな人間関係をつくっていく中で、学ぶべきことがたくさんあると思います。もちろん苦しいことや嫌なこともあるとは思いますが、よいことも必ずあるはず。私は、この仕事に就いてから、多くの人に助けていただきます。やはり、人とのつながりは大切です。学校は、様々な体験を通して、仲間づくり、絆づくりができる場所です。それには、ある程度の生徒数が必要だと思います。もちろん勉強もしてほしいし、職員も充実させたい。部活動も選択肢が広がるようにしたい。しかし、第一は、やはり様々な体験を通して、人とのつながりを広げてほしいです。

統合するためには、皆さんのアイデアも欲しい。地域の学校っていうことを考えると、地域のご年輩の方や若い方など、広い世代からご意見を聞くことも大切だと思います。これまでの皆さんのお話を聞いていて、早く統合したいと思っています。

委員長 記憶に新しいところで、やっぱり皆さん方、統合の話の部分については、もう既に長時間かけてやってきていると。その他のご意見はございませんか。

委員 今日の委員会の目的、皆さんに話を聞くと、教育環境の方向性について検討をしているという意見は無く、南地区の中学校の統合に向けての課題を解決しようという意見であるので、今後、そのようにしていきたいし、事務局方の頭の中もそっちのほうで考えていただきたいと。委員長、副委員長、事務局でこれからどんな形に持っていくのか考えてほしいと思っています。

委員長 ありがとうございます。それでは、玉置先生に、この後、ご指導のほうを伺いたいと思いますが、今やっぱり問題になってきているのは、恵那南地区の教育環境という事ではありますが、恵那南中学の統合という課題であり、もう少しこの目的をはっきりして、次の会に臨みたいと思います。それでは玉置先生、アドバイスををお願いします。

アドバイザー

はい。皆様、よろしく申し上げます。少しお話をさせていただきます。
私がアドバイザーという立場を仰せつかったのは、恵那市のICT、学校教育のICTの活用についてアドバイスをさせていただいて、それぞれ充実をしてきておられる、まあそれに関わっている大学人であるし、それから、もう一つは、文部科学省の委員もしてまして、私はアドバイザーとして、冷静に聞いて、アドバイスをしなさいという立場で私はあると思って聞いていました。皆さん本当にきちっとした思いもあり、きちっと筋が通るといいますかね。子供たちのこと、それから、この地区のことをお考えの上での発言で、本当にいいスタートというか、本来ならばもう統合されていた中で、いろんな思いがあり、それも心に込めながら言っていただきましたけど、非常に冷静にご判断に関わる意見をされたなと僕は思います。ですから、激論としても非常にいい内容、これ、まあこういうものがきちっと後で皆さんにも読んでいただくというのが大事ですけど、そういう意味においても、とても僕は冷静な良い時間を、意見をされたなということを思います。

そして、教育長が総括的に質問を受けて、教育長としてのお考えをきちっと言われたということは、貴重な時間だったと思います。総括すると、皆さん方も、それから教育委員会も、多面的、多角的、ある一面からだけではなくて、本当に子供たちのこと、それから、この地区の先のことを踏まえて建設的なご意見を言われたということ、僕は改めて冷静に聞いて思いました。ですから「こんなところ、ちょっと視点が抜けていますよ」なんていうアドバイスをするようなことは、一切ありません。

そして、最後に、委員が目的をもう一回改めてというお気持ち、ものすごく分かりますけど、これは委員長、副委員長さんにお任せしますけど、これもきちっとこういう意見が出て、こうなったということも残されてもいいかなと考えます。今から要綱を変えられなくても、ご意見を伺ったというご判断でもいいので、また後でそれはお任せしますけど、私は、今から最初の要綱を変えることはせずに、こういう意見があって、最終的にこういうことが大事だと。そして、きちんと記録を残されてもいいかなと考えます。これはもう最後、皆様方にお任せしますけど、そう思いました。

そして、もう一つ言うと、今の子供たちですね。今の子供たちのことを忘れられていないということについては、僕はとても大事だと考えます。一つだけお話をさせていただくと、今は、本当にオンラインです。コロナが出て、今、学校とは何だということを、世の中自体は言うようになってきました。そして、学校へ通うことが、極端な人は、学校へ通うことの意味は何だっていうところまで言っている人が世の中にいっぱいいます。思いはよく分かるのです。とりあえず今の子供たちの社会性や、みんなで学ぶといいということを、最大限に今やれることを精いっぱいやろうということで、恵那の教育委員会は施設を充実させて、オンラインで、見ていただくとすごいと思いますが、本当にリアルタイムに、私も生徒会がもう交流している、いわゆる、まさに目の前に人がい

るように交流できるという環境もオンラインで出来るようになっていきます。子供たちが今抱えている、いわゆる社会性や、集団での学びも、授業もオンラインで2つの学校をつながって行っているのです。そうすると、向こうの学校にも先生がおられるわけですから、そういう意味でいけば、普通の学校より充実しているわけですね。そういう面で非常に努力をされて整備されているということは間違いありませんので、そこはぜひご理解をいただきたいと思います。今日の会議の本題ではないですけど、そんなことも今、私は付け加えておきたいということをお話して、アドバイスになりませんが、お許しをいただきたいなと思います。ありがとうございました。

委員長 玉置先生、どうもありがとうございました。

それでは、第1回目は皆さんの意見をきいたところで、次回について事務局からお願いします。

教育委員会事務局次長兼学校再編対策室長

次回の会議のことについてお話させていただきます。

今日、皆様にご意見を伺いまして、前川会長様のほうから目的をはっきりすること。あと、ほかの保護者の皆様から今後のスケジュールとか示すこと、そういうことを承りましたので、本日の意見をまとめ、委員長及び副委員長と次回の会議について打ち合わせをさせていただきたいと思います。

委員 今日会議の内容などを、特に関わっている明智、山岡、岩村、上矢作、串原地域の保護者へ伝えていく方法は、どんな形で伝えますか。

教育委員会事務局次長兼学校再編対策室長

今後、保護者の皆様に伝えていく予定です。「すぐーる」というアプリが各学校にあります。そちらのほうでしっかり報告させていただきますので、よろしく願いいたします。

委員長 それでは、本日はこれで終了します。ありがとうございました。

会議終了：午後9時